

受賞名	審査委員長特別賞	部門名	建築部門
作品名	Tsubo Niwa 3		
応募者名	株式会社 YUUA 一級建築士事務所 代表取締役 相原 まどか、Mimosa Ceratti		
住宅の概要	住所 埼玉県入間市	構造・階数 木造2階	延床面積 73.16 m ²
環境への工夫	<input type="checkbox"/> 1 自然材料の利用や資源循環の長寿命化に関する工夫 <input checked="" type="checkbox"/> 2 省エネ設計手法に関する工夫 <input checked="" type="checkbox"/> 3 自然と共生し、自然通風など自然力利用に関する工夫 <input type="checkbox"/> 4 地域の林業、気候風土・歴史的技術の継承などへの工夫 <input type="checkbox"/> 5 災害時でのLCPが継続できる工夫 <input checked="" type="checkbox"/> 6 その他の独創的な工夫		
作品の説明	<p>住宅が密集して建て込んでいる敷地条件から、隣地側に窓のない矩形の外形とし、その矩形を穿つように内側に3つの坪庭を設置した。</p> <p>坪庭を挟んで対面する大きな窓からは、自然光と自然風を十分に室内に取り込み、機械的な照明や換気は最低限に抑えて自然エネルギーの活用を図っている。中庭の周りに展開する4つの矩形の建物内部は吹き抜けて緩やかに繋がり、取り込んだ自然光や自然風が建物内部隅々まで行き渡るような室内環境としている。</p> <p>3つの坪庭は近隣との間のプライバシーに配慮して積極的に緑化し、室内にいながら屋外と一体となるようなのびのびとした開放感を楽しめる空間としている。</p> <p>建物の構造体として木材を積極的に活用し、それを可視化してインテリアに見せるデザインとした。左官外壁、天然木材フローリングや天然石など自然素材を活用し、何月とともに味わいを増す素材の質感を楽しめる空間となっている。</p>		
講評	<p>Tsubo Niwa 3と名付けたこの家は、現代の狭小宅地をものともしない強靱な精神が表れている。資料だけでは周辺の環境がどの程度のものか不明だが、周りを壁で堅固に囲い、中央のスリット状の坪庭がすべてを物語っている。環境配慮、外部との関係、自然の力を利用するなど、多くの解決がこの一太刀でできているのだろうと思う。中央のガラスに囲まれた食堂で一度味わってみたいと思わせる魅力を持った作品だと評価したい。ただ惜しむらくは、周囲の状況の情報の少なさと、省エネ法の計算で環境性能が高いことが示されていないこと、そしてコミュニティとの良好な関係をこのスリットは保てることを示してほしいと思う。(講評者：中村委員長)</p>		